

令和元年度市政執行方針

「活気に満ちたまち、歩いて楽しいまち、訪れたくなる
美しいまち、住む人にやさしいまち」をめざして

工藤市長は、第2回函館市議会定例会において、令和元年度の市政執行にあたり、その所信を明らかにしました。（要約を掲載します）



市長 工藤 壽樹

本年4月に行われた市長選挙におきまして、多くの市民の皆様から温かいご支援をいただき、引き続き市政を担わせていただくこととなりました。

身の引き締まる思いであり、その責任の重さを改めて感じています。

さて、我が国においては、世界のどの国も経験したことがない人口急減・超高齢化の時代に入っています。

私は、日本の総人口が減少していく時代にあつて、これからのまちづくりは、人口や経済規模など「量」的な価値で評価される時代から、市民一人ひとりの幸せと豊かさを求める「質」の時代へ転換していくことが肝要であると考えています。

高齢者や障がい者をはじめ、単身生活者、子育て世帯

やひとり親家庭など、それぞれの暮らしや生活の実情を踏まえ生活面、経済面、健康面にわたってレベルアップを図ります。また、持続可能なまちづくりを進めていくためには、経済を支え強化することや、快適で魅力あるまちづくりも重要です。

少子高齢化の進行や人口減少により、地域を取り巻く状況は、依然厳しいものがありますが、私は「活気に満ちたまち、歩いて楽しいまち、訪れたくなる美しいまち、住む人にやさしいまち」をめざし、これからの4年間「市民一人ひとりの幸せづくり」と「地域経済の強化」を最大のテーマとして、函館のまちづくりに取り組んでいきます。

主要施策の推進

1 市民一人ひとりの
幸せを大切にします

行政をはじめ関係機関や町会などが連携し、高齢者や障

がい者、単身生活者、子育て世帯やひとり親家庭などの方々の暮らしと生活を地域で支える仕組みづくりを進めます。また、子育て世代が安心して子どもを産み育てやすい環境の整備とともに、子どもの学習支援など教育環境の充実を図ります。

高齢者の保健福祉では、地域包括支援センターを中心に、介護や認知症などの様々な相談に対応するほか、医療・介護連携支援センターにおいて、切れ目のない在宅医療・介護の提供体制の構築を進めます。

障がい保健福祉では、引き続き相談支援体制の充実や就労の促進を図るほか、障がい者基本計画にかかる指針の策定に向けた実態調査を行います。

介護人材の不足では、介護助手の活用を促進するとともに、新たにセミナーや職場体験、合同就職面接会が一体となったマッチングの機会を提

供し、人材の確保を図ります。ひとり親家庭への支援で

は、看護師などの資格取得をめざし養成機関に通う方に授業料等を支援するほか、合同企業説明会の開催などによる就職のサポートを行います。また、新たに「ひとり親家庭サポート・ステーション」を設置し、生活相談への対応のほか、相談内容に応じた家庭への訪問や関係機関への付添支援も行います。

地域福祉では、市内10か所に設置された地域包括支援センターの機能拡充などにより、高齢者やひとり親家庭、障がいのある方々を暮らしや生活の実情に応じ、地域で見守り支える福祉拠点づくりに向けた検討を進めます。

地域コミュニティの強化では、町会が抱える加入率低下などの課題解決を図るため、町会やまちづくり団体などと町会活性化に向けた検討を行います。

健康の維持・増進では、がん検診の受診勧奨に加え、新たに、過去に検診を受診した方への個別勧奨を行うなど、がん検診の受診率向上に努めます。また、新たに「はこだて市民健康（けんこう）大学」を開校し、生活習慣の改善などを通じた市民の健康寿命延伸をめざします。

子育て支援では、「マザーズ・サポート・ステーション」で妊娠、出産、子育てなどの相談に対応するほか、学童保

育では、保護者負担の利用料をさらに軽減するとともに、施設職員の処遇改善を図ります。また、子どもやひとり親家庭の医療費について、課税世帯の通院費を除きすべて無償化するための準備を進めます。

教育環境の充実では、生活困窮世帯の中学生に対する学習支援の対象者数の拡充など、子どもたちが未来への希望を持ち成長できる環境整備を進めます。

2 函館の経済を支え
強化します

強化します

観光振興を中心とした交流人口の拡大に努めるほか、AIなど先端技術を活用した地場産業の生産性向上や収益力の強化を支援します。また、若者の地元への就労促進、女性や高齢者の就労支援のほか、外国人材の活用など、人手不足対策にも取り組めます。観光振興では、冬季観光の充実を図るため、新たに湯の川地区でのイルミネーションやグルメなどのイベント、元町公園などでの「はこだてひ

かりのガーデン」を開催し、フェスティバルタウンの形成を進めます。

クルーズ船の受け入れでは、若松ふ頭の本格供用に向け、新たに旅客ターミナルの整備を進めるとともに、積極的なポートセールスを展開します。

このほか、観光客誘致への取り組みや観光資源の魅力向上など、さらなる観光振興を図るための新たな財源として、観光目的税の早期導入に向け、有識者を交え検討を進めます。

若者などの就労支援では、市内の高校生や大学生等と地元企業との交流の機会を提供し、地元への就職機会の増加につなげていくほか、女性や高齢者を対象として、宿泊施設での仕事体験を実施し、就業機会の拡大を図ります。

外国人材の受け入れでは、地元企業を対象としたセミナーを開催するなど、雇用環境の整備に向けた取り組みを進めます。また、在住外国人が安心して暮らせるよう日本語教室の定員を拡充するほか、相談窓口の多言語化・ワンストップ化を図るなど支援を充実します。

漁業では、小型イカ釣り漁業者の燃料費負担を軽減すること、出漁を促し観光需要期の生鮮スルメイカの漁獲量確保につなげるほか、新たにサーモンなどの養殖事業の可

能性について検討します。また、コンブ漁業では、水揚げ後の労働負担を軽減するため調査研究を行います。

農業では、農地の整備や機能維持を支援するとともに、ワイン用ぶどう栽培への助成を行うなど、良質な農産物の安定供給や高付加価値化の取り組みを進めます。

「食の産業化」では、料理体験を通じた食の担い手の育成を図るほか、「はこだてフードフェスタ」の開催など、本市の食の魅力を広く発信します。

物産の販路拡大では、新たに土産品についてインバウンドのニーズ調査を実施し、地元企業の商品開発や販売戦略を支援します。

工業の振興では、地元企業への専門家の派遣や学術研究機関との共同研究への助成を実施するなど、AIやIoT、ロボットなど先進技術の導入を引き続き支援します。

企業立地の促進では、IT企業等の誘致を進めるとともに、IT技術者の人材育成支援などの優遇策に取り組みます。

3 快適で魅力あるまちづくりを進めます

デザイン性の高い都市空間や花と緑にあふれる町並みの整備を進めるなど、まちの魅

力をさらに高めます。また、交通アクセスの向上など都市機能の充実に取り組むとともに、災害に強いまちづくりを推進します。

「ガーデンシティ函館」では、観光エリアの西部地区において、函館山遊歩道の再整備を行うとともに、観光案内板や視点場の整備を進めます。また、函館山山麓観光駐車場の改修工事を行います。

西部地区の再生では、優れた景観を生かし観光と居住が融合した良質な住宅地としての再整備に向け、基本方針を策定し、不動産情報のデータベース化や地権者の意向調査などを実施します。

文化財については、伝統的建築技術を継承する人材を育成するほか、旧函館区公会堂の保存修理や五稜郭跡の石垣改修などに取り組みます。また、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録に向け、さらに機運を高める取り組みを進めます。

文化・スポーツ振興では、千代台公園野球場の内野グラウンドなどの整備や、市民スケート場の設備更新を進めます。また、東京オリンピック聖火リレーの北海道のスタート地として、関係機関などと連携し準備を進めるほか、ハインドボール男子日本代表の函館合宿を支援します。

交通体系については、北海道縦貫自動車道や函館新外環状道路の着実な整備などについて、引き続き国に要望してまいります。

公共交通では、効率的でわかりやすいバス路線網への再編を進めるため、美原地区路線バス乗降場の整備に向けた実施設計を行います。

防災では、国土強靱化地域計画の策定や都市インフラの老朽化対策などを行うほか、長期停電対策や冬期における防寒対策を図るなど、災害に強いまちづくりを推進します。

大間原子力発電所の建設差止め訴訟では、5年を経過したことから、これまでの状況について説明会を開催するなど、市民の生命や財産を守るため、引き続き強い決意で取り組みます。

除雪対策では、安定した除排雪体制づくりを進めるとともに、町会などに貸与する小型除雪機の台数を増やし、市民協働による地域除雪活動のさらなる充実を図ります。

環境保全・廃棄物対策では、プラスチックごみの排出抑制や、海洋への流出防止について啓発活動を推進するほか、新たな廃棄物処理施設の整備に向けた基本設計や生活環境影響調査を継続実施するとともに、事業者選定に向けた準備を進めます。

移住者や定住者の誘致では、東京都内でセミナーを開催するほか、新たに北海道と連携し、東京圏からの移住者の経済的負担を軽減する移住支援金を支給するなど、函館へのIJUターンを促進します。

行財政改革については、事務のAI・ICT化による業務の効率化を進めます。また、マイナンバーカードを使い全国のコンビニエンスストアで住民票などを受け取ることができる証明書交付サービスを実施します。



今、世界はAIやIoT、ロボットといった技術革新をあらゆる産業や生活に取り入れることにより、様々な課題を解決していく時代に入っています。多様な高等教育機関や研究機関の集積、先端技術に関わる高度な人材の育成など函館の持つポテンシャルを最大限生かし、様々な可能性を拡げていきたいと考えています。

そして、子どもから高齢者まで性別を問わず、障がいの有無に関わらず、誰もが幸せと豊かさを感じ、安心して暮らすことができるまちをめざし、市政運営に取り組んでまいります。

皆様のより一層のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。